

Ⅲ. 緩和ケア科 運用状況報告

(1) 平成 29 年度 緩和ケア科運用実績 (平成 29 年 12 月末現在)

平成 29 年度 (4 月～12 月末) の緩和ケア病棟診療実績は、新規紹介患者数が 246 名であった。新規紹介患者の内訳は院内紹介 166 名、院外 80 名であった。新規入院患者数は 175 名で、そのうち院内からの紹介が 116 名 (66.3%) 昨年 80.6%、院外が 59 名 (37.7%) 昨年 19.4%と前年度と比較し院内は減少し、院外からは増加していた。

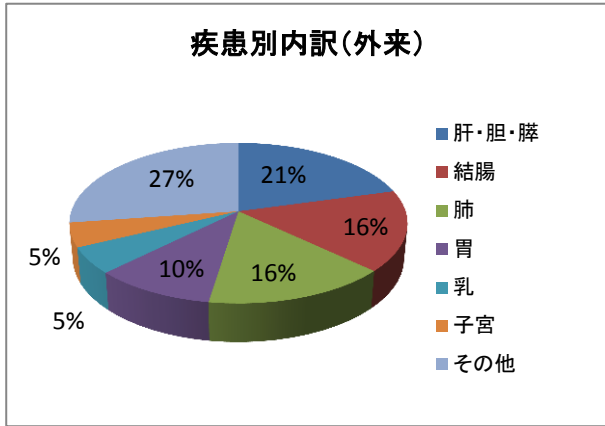
院内から転棟した入院患者の紹介元は、臨床腫瘍科 51 名、(44.0%)、呼吸器内科 18 名 (15.5%)、消化器内科 10 名 (8.6%)、外科、婦人科が各 8 名、泌尿器科 6 名が主な診療科であり、臨床腫瘍科からの転棟患者数が占める割合が 4 割以上となっている。院外からは広島大学病院 19 名、広島市民病院 14 名、広島赤十字・原爆病院 7 名で、がん診療連携拠点病院からの紹介入院が 43 名であった。院外からの紹介患者総数 59 名のなかでの割合は 72.9%で昨年は 75.0%だった。開業医からの紹介入院は 6 名であった。

疾患別では、肝・胆・膵がん 34 名 (19.4%)、結腸がん 32 名 (18.3%)、肺がん 28 名 (16.0%) 胃がん 18 名 (10.3%) であった。

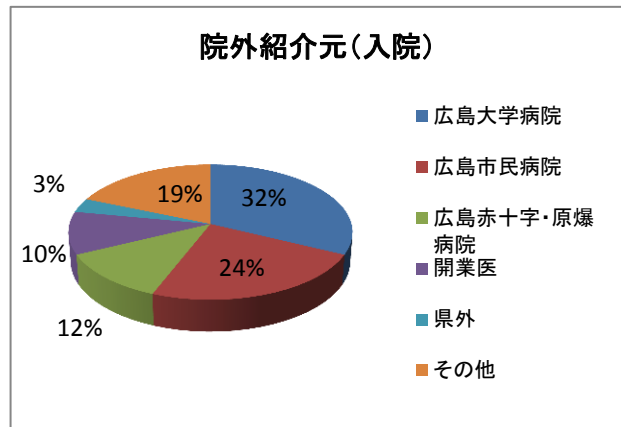
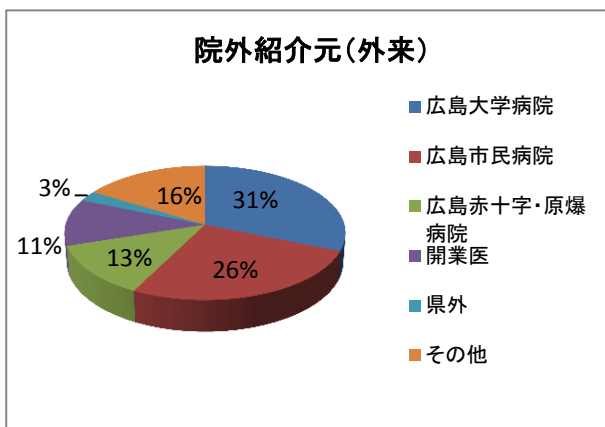
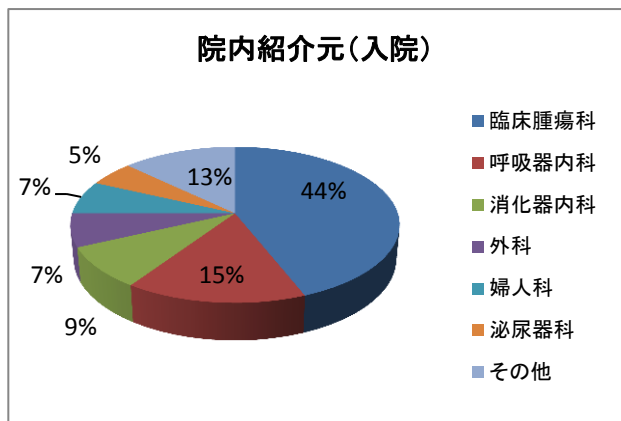
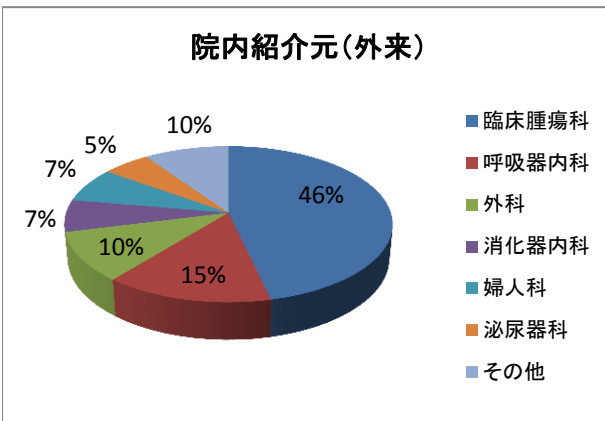
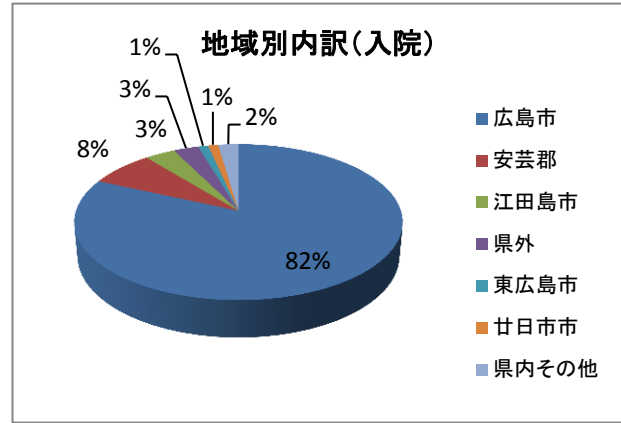
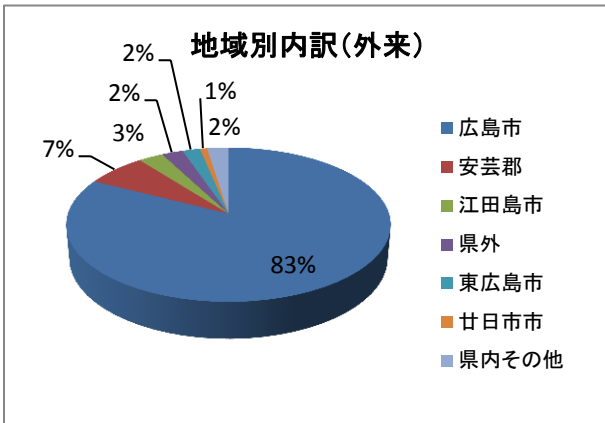
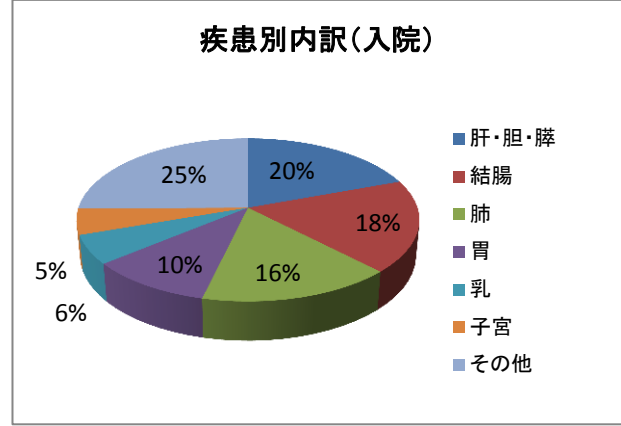
退院患者数は 198 名で、そのうち 155 名が死亡退院であった。死亡退院率は、28 年度の 87.4%から 78.34%と減少していた。

平均病床稼働率は 89.0%と、平成 28 年度の 85.1%と比べ増加していた。平均在院日数は 24.2 日で、平成 28 年度の 25.1 日 (平成 27 年度 26.9 日) と比較し、短くなっていた。

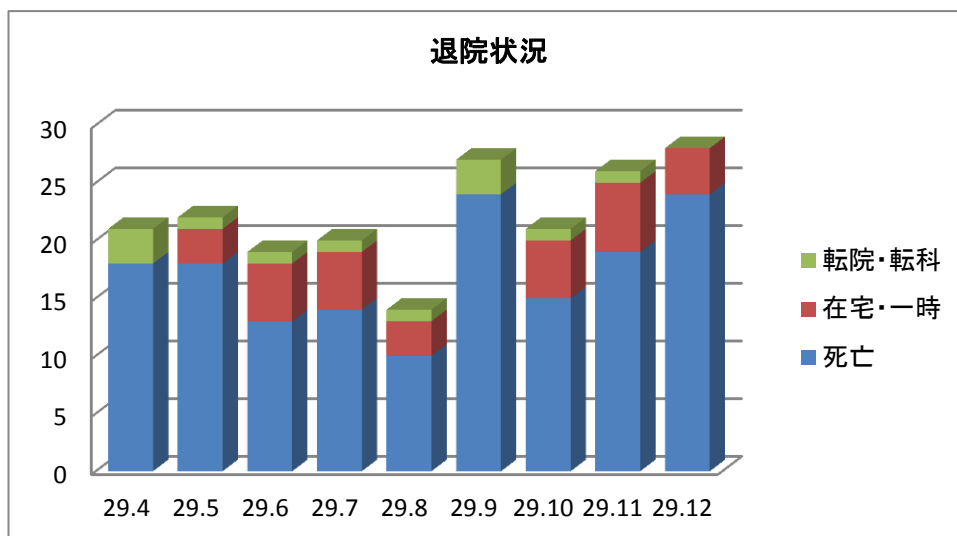
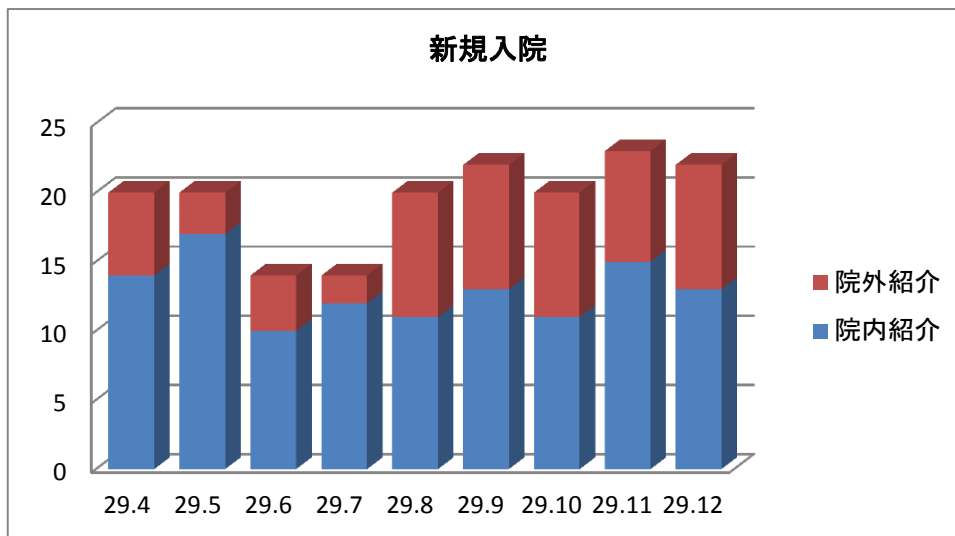
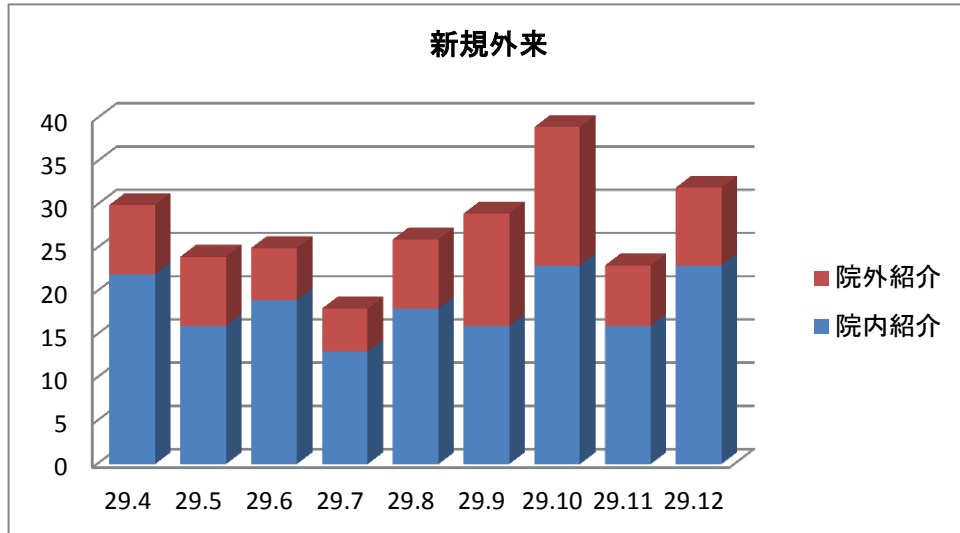
1. 外来部門



2. 入院部門



平成29年度緩和ケア科運用実績



(2) 平成 29 年度 緩和ケアチームの活動

緩和ケアチーム・緩和ケア科 小原弘之

平成 22 年 1 月から当院の緩和ケアチームは、緩和ケア診療加算を算定する施設の認定を受けて活動を継続してきた。緩和ケアチームは、チーム専従医師、専従看護師、専任の薬剤師の 3 人がコアメンバーで活動してきた。チームの専従看護師の所属が、臨床腫瘍科の外来に変わり、外来化学療法を受けている患者さんの支援が容易にできる体制の変更している。平成 28 年 4 月以降は、緩和ケア診療加算の算定を休止しているが、在宅診療専門の医師の診療支援を受けて、在宅療養を積極的に進める体制を整えている。

平成 29 年度は、4 月から 12 月までの緩和ケアへの新規患者数は、165 名であった。依頼された内容は、疼痛 57 名 (34.5%)、疼痛以外の身体症状 44 名 (26.7%)、精神症状 37 名 (22.2%) で、緩和ケア病棟に関する情報提供が 130 名 (78.8%)、などであった。

緩和ケア病棟に転棟になったのは 96 名 (86.7%) で、概ね円滑に緩和ケア病棟に移行できている。緩和ケアチームへの依頼は、主治医自らもしくは、病棟看護師から緩和ケアチームのスタッフに相談できるようになっている。各診療科で基本的な症状緩和を行い、十分な効果が得られなかった難治性の症状緩和を必要とする場合や、緩和ケア病棟への移行を考慮して情報提供が必要とされる場合に緩和ケアチームに相談する形が定着している。

病院全体が急性期病院として入院期間の短縮化を目指し、第 3 次がん対策基本計画には緩和ケア病棟の機能分化の必要性が述べられている。当院の緩和ケア病棟は、病院全体で緊急入院に対応する診療を求められており、院内各診療科、院外医療、福祉機関と密接な連携をとりながら緩和ケアの充実を目指していく必要がある。